

英国プロサッカークラブにおける 選手の資産計上の実務

—Tottenham Hotspur と Heart of Midlothian の事例を中心として—

角 田 幸太郎

【要 旨】

1990年代以降の英国において、人的資源に関わって支出した金額を実務上、資産計上している稀有な事例がある。英国プロサッカークラブでは、他のクラブから選手を引き抜く際に支出した金額を無形固定資産として貸借対照表に計上しているのである。この事例については複数の文献で紹介されているが、その経緯は明らかではない。そこで本稿では、先行研究や当時の実務を検証することを通じて、起源や目的を明らかとすることを目的とする。

【キーワード】

人的資源会計、無形資産会計、intangible、イングランドプレミアリーグ、移籍金

1. はじめに

人的資源は我々にとって最も身近な存在であり、人類が誕生して以来、産業革命以前の手工業時代までは、人的資源こそが最も貴重な労働力であったといえる。現代においても「従業員が、我が社で最も価値のある資産である」という類いの表現は、現に企業が発行する各種の報告書等に見受けられるところである。しかしながら、日本をはじめとする各国の会計基準では、人的資源は有形資産としても無形資産としても認識されず、すなわち企業の財務報告の対象外となっている。それゆえ、現行の企業会計のもたらす情報は必ずしも企業の実態を反映しているとはいえない。

これに対して、1990年代以降の英国において、人的資源に関わって支出した金額を実務上、資産計上している稀有な事例がある。英国プロサッカークラブでは、他のクラブから選手を引き抜く際に支出した金額を、無形固定資産として貸借対照表に計上しているのである。この稀有な会計処理については Morrow [1992] や白石 [1997]、角田 [2006]、[2008] など、複数の文献で紹介されている。中でも、Morrow [1992] では「現在、英国では2つのクラブ（Heart of Midlothian FC plc および Tottenham Hotspur plc）のみが貸借対照表に資産として選手が含まれている」と述べられている。しかしながら、この稀有な会計処理の起源について、誰が、いつから、どのような意図で行うようになったのか明らかではない。

そこで本稿では、先行研究や当時の実務を検証することを通じて、英国プロサッカークラブでは誰が、いつから、どのような意図で、他のクラブから選手を引き抜く際に支出した金額を無形固定資産として貸借対照表に計上するようになったのか、を明らかにすることを目的とする。

2. プロスポーツクラブにおける人的資源の重要性

現行の企業会計では、人的資源は企業におけるコストでしかないが、経営上は重要な資源であることに疑いの余地はない。たとえば、現代において「従業員が、我が社で最も価値のある資産である」と考えられる企業の例として、プロスポーツクラブがある。プロスポーツクラブは営利企業であり、その経営は、チームを強化するべく有能な選手やチームスタッフを集め、トレーニング施設を整備し、スタジアムを準備して試合を行ない、集客によるチケット売上やグッズ販売で収入を得る、というのが一般的である。

北米では、野球のMLB (Major League Baseball の略称)、バスケットボールのNBA (National Basketball Association の略称)、アメリカンフットボールのNFL (National Football League の略称)、アイスホッケーのNHL (National Hockey League の略称) が4大プロスポーツとして定着しており、それぞれ長い伝統がある。また、欧州や南米をはじめとする世界各国ではサッカー人気は根強く、特に英国はサッカー発祥の国として知られている。英国のプロサッカーリーグは現在までに120年以上の歴史があり、プロサッカークラブ数も130を超えている。このように、英国においては、プロサッカー産業が一大エンターテインメントとして既に確立していることに特徴がある。

英国のプロサッカーのみならず北米の4大プロスポーツにも当てはまることであるが、プロスポーツクラブのチーム強化方法は大きく分けて2つあり、クラブ内部の育成組織から若手選手を堅実に育て上げる方法と、クラブ外部、すなわちライバルクラブから既に育った選手を引き抜く方法がある。後者の場合、ライバルクラブから有望な人材を無支出で引き抜くことができれば良いが、選手を引き抜かれる側としては大切な人材を競争相手へ無償で手放すわけにはいかない。

そこで、英国の域を超えて世界各国へ広がるプロサッカー産業では、すべてのプロサッカー選手の「選手登録権」(player's registration) に対して売買価値が存在し、プロサッカークラブ間で売買されている。この選手登録権というのは、選手を自身のクラブで契約期間内は独占的にプレーさせる法的な権利である。

たとえば、世界を代表するプロサッカー選手のひとりとして今後の活躍が期待されるウェールズ人の Gareth Bale (以下、Bale) が2013年夏にイングランドの Tottenham Hotspur からスペインの Real Madrid へ移籍した際に、9千1万ユーロ (約120億円) という大金が Real Madrid から Tottenham Hotspur へ支払われたが、これは、Bale の選手登録権を得る対価として支払われたものと見なすことが出来る。金額の多少の違いはあるが、このような事例は一部のプロサッカー選手やプロサッカークラブに限られたものではなく、すべてのサッカー選手やサッカークラブが対象となりうるものであり、すべてのプロスポーツ選手やプロスポーツクラブに当てはまりうる事例である。

3. 英国プロサッカークラブの経営

プロサッカー産業が一大エンターテインメントとして既に確立している英国においては、プロサッカークラブの経営や会計処理にも注目すべき特徴がある。

Tottenham Hotspur plc は英国で株式市場に上場した先駆けのプロサッカークラブとしても知られている。Amir and Livne [2005] では、1990年から2003年にかけての英国プロサッカークラブの株式公開および非公開の変遷一覧が紹介されている。以下、表1として参照する。

表1 英国プロサッカークラブの株式公開および非公開の変遷一覧 (1990～2003年)

	株式非公開	株式公開
Chelsea	1992～1995年	1996～2003年
Manchester United	1992・1993年	1994～2003年
Liverpool	1991～2003年	
Newcastle United	1990～1996年	1997～2002年
Grasgow Rangers	1990年	1991～2003年
Arsenal		1991～2003年
Aston Villa		1992～2003年
Tottenham Hotspur	1990・1991年	1992～2003年
Leeds United		1990～2003年
Celtic		1990～2003年
Everton	1991～2003年	
Sunderland	1993～1996年	1997～2003年
West Ham United	1991～2003年	
Blackburn Rovers	1991～2003年	
Manchester City	1990～1994年	1995～2003年
Coventry City	1991～2003年	
Sheffield Wednesday	1990～2003年	
Derby County	1991～2003年	
Nottingham Forest	1991～1996年	1997～2001年
Leicester City	1990～1996年	1997～2003年
Southampton	1991～1993年	1994～2003年
Birmingham City		1990～2003年
Bolton Wanderers	1990～1996年	1997～2003年
Wimbledon	1991～2001年	
Queens Park Rangers	1990～1996年	1997～2000年
Sheffield United		1991～2002年
Ipswich Town	1991～2003年	
West Bromwich	1992～1994年	1995～2003年
Aberdeen	1991～2003年	
Heart of Midlothian	1990～1996年	1997～2003年
Charlton Athletic	1991～1996年	1997～2003年
Swindon Town	1991～1998年	
Millwall		1990～2003年
Dundee United	1991～2003年	
Huddersfield Town	1991～2001年	
Burnley	1991～2003年	

Preston North End	1990～1994年	1995～2003年
Reading	1991～2003年	
Bradford City	1991～1997年	1998～2002年
Watford	1991～2003年	
Oldham Athletic	1991～2001年	
Peterborough United	1991～2003年	
Oxford United	1991～2003年	
Motherwell	1991～2003年	
Barnsley	1991～2000年	
Southend United	1991～2001年	
Plymouth Argyle	1991～2003年	
Wrexham	1991～2002年	
Bury	1991～2003年	
Bristol Rovers	1991～2003年	
Dunfermline	1991～2001年	
Dundee	1991～2001年	
Cambridge United	1991～2003年	
Scunthorpe United	1991～2003年	
Rotherham United	1991～2003年	
Hull City	1991～1999年	
Mansfield Town	1991～2001年	
Shrewsbury Town	1990～2003年	

出処：Amir and Livne [2005] Table 1, pp. 558-559を筆者加筆修正。

表1に基づくと、Tottenham Hotspur は1992年から株式公開し始めたということになるが、自らの調査により、Tottenham Hotspur plc の Annual Report and Accounts のコピーを1984年から1987年まで、1989年から1991年まで、1994年から2012年まで入手しており、1990年と1991年は株式非公開というのは誤りである。

また、Tottenham Hotspur plc [1984] の Chairman's Statement には「1983年から株式公開し始めた」²という記述が見受けられる。この Tottenham Hotspur の株式公開を他クラブが意識したかどうかは定かではないが、表1より、他クラブも1990年代に次々と株式公開を行い始めたことが読み取れる。

英国プロサッカークラブの経営の特徴を示すべく、Tottenham Hotspur plc の資産額の内訳および変動を図に示すと図1のようになる。

ここでの Intangible assets (以下、無形資産) とは、選手登録権の獲得の際に支出した金額の累計額である。すなわち、人的資源に対する投資額の方が、土地や建物、設備に対する投資額よりも上回っている状況にあるのである。この点については、複数の英国プロサッカークラブの財務諸表も同じような状況を示しており、人的資源に関して支出した金額は経営そのものに影響を及ぼすほどに莫大である。これこそが、英国プロサッカークラブの経営の特徴である。

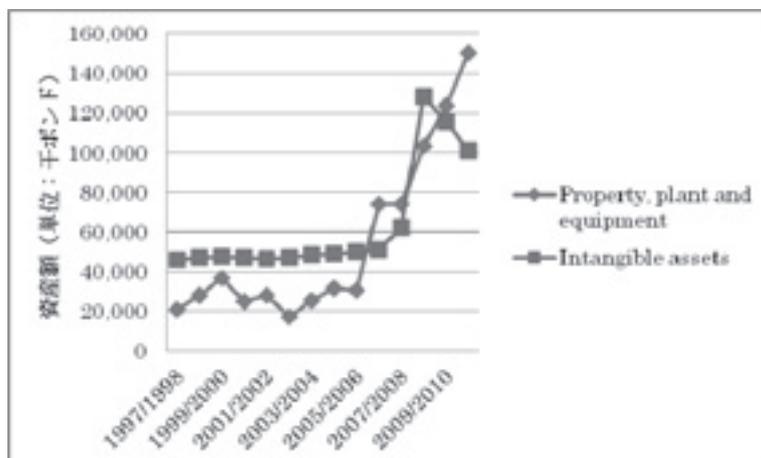


図1 Tottenham Hotspur plcにおける資産額の内訳と推移
出所：Annual Report and Accounts を基に筆者作成。

4. 英国プロサッカークラブにおける選手移籍金の会計処理

Amir and Livne [2005] で紹介されている、1990年から2003年にかけての英国プロサッカークラブの選手移籍金の会計処理の変遷一覧を、表2として参照する。ここで、選手登録権と選手移籍金の用語の違いについて、総称としての選手移籍金は、(選手の移籍費用として)即時費用処理される場合と、(選手登録権として)資産計上される場合があり、意図して使い分けている。

表2 英国プロサッカークラブの選手移籍金の会計処理の変遷一覧 (1990～2003年)

	(移籍費として) 即時費用処理	(選手登録権として) 資産計上
Chelsea	1992～1994年	1995～2003年
Manchester United	1992～1998年	1999～2003年
Liverpool	1991～1998年	1999～2003年
Newcastle United	1990・1991年、1995～1998年	1992～1994年、1999～2002年
Grasgow Rangers	1990～1993年、1997～1998年	1994～1996年、1999～2003年
Arsenal	1991～1998年	1999～2003年
Aston Villa	1992～1998年	1999～2003年
Tottenham Hotspur		1990～2003年
Leeds United	1990～1996年	1997～2003年
Celtic	1990～1993年	1994～2003年
Everton	1991～1998年	1999～2003年
Sunderland		1993～2003年
West Ham United	1991～1998年	1999～2003年
Blackburn Rovers	1991～1998年	1999～2003年
Manchester City	1990～1998年	1999～2003年
Coventry City	1991～1998年	1999～2003年
Sheffield Wednesday	1991～1998年	1999～2003年
Derby County		1991～2003年

Nottingham Forest	1991～1997年	1998～2001年
Leicester City	1990～1998年	1999～2003年
Southampton	1991～1998年	1999～2003年
Birmingham City	1990～1998年	1999～2003年
Bolton Wanderers	1991～1998年	1999～2003年
Wimbledon	1991～1998年	1999～2001年
Queens Park Rangers	1990～1998年	1999～2000年
Sheffield United		1991～2002年
Ipswich Town	1991～1998年	1999～2003年
West Bromwich	1992～1994年	1995～2003年
Aberdeen	1991～1994年	1995～2003年
Heart of Midlothian		1990～2003年
Charlton Athletic	1991～1997年	1998～2003年
Swindon Town	1991～1998年	
Millwall	1990～1995年	1996～2003年
Dundee United	1991～1998年	1999～2003年
Huddersfield Town	1991～1997年	1998～2001年
Burnley	1991～1997年	1998～2003年
Preston North End	1990～1993年	1994～2003年
Reading	1991～1998年	1999～2003年
Bradford City	1991～1998年	1999～2002年
Watford	1991～1998年	1999～2003年
Oldham Athletic	1991～1998年	1999～2001年
Peterborough United	1990～1992年、1994～1998年	1993年、1999～2003年
Oxford United	1991～1998年	1999～2003年
Motherwell	1991～1998年	1999～2003年
Barnsley	1991～1998年	1999～2000年
Southend United	1991～1998年	1999～2001年
Plymouth Argyle	1991～1998年	1999～2003年
Wrexham	1991～1998年	1999～2002年
Bury	1991～1998年	1999～2003年
Bristol Rovers	1991～1998年	1999～2003年
Dunfermline	1991～1998年	1999～2001年
Dundee	1991～1992年	1993～2001年
Cambridge United	1991～1998年	1999～2003年
Scunthorpe United	1991～1998年	1999～2003年
Rotherham United	1991～1998年	1999～2003年
Hull City	1991～1998年	1999年
Mansfield Town	1991～1998年	1999～2001年
Shrewsbury Town	1990～1998年	1999～2003年

出処：Amir and Livne [2005] Table1, pp. 558 - 559を筆者加筆修正。

表2より、以下のことが読み取れる。

- ①選手移籍金を資産計上していることが1990年の時点で確認されているのは Tottenham Hotspur と Heart of Midlothian の2クラブのみであり、この事実は Morrow [1992]³の言及を裏付けるものとなる。
- ②上記2クラブの他に、選手移籍金の資産計上が1990年代の早い時期に確認されたのは1991年の Derby County と Sheffield United の2クラブ、1992年の Newcastle United、1993年の Sunderland と Peterborough United、Dundee の3クラブ、1994年の Gragrow Rangers と Celtic、Preston North End の3クラブなどである。
- ③1998年以前は選手移籍金を即時費用処理するクラブと資産計上するクラブとが存在した。
- ④1999年以降、選手移籍金を即時費用処理するクラブは無くなった。

④の理由については、角田 [2006]⁴で詳述しているが、英国の無形資産についての会計基準 (FRS10) が1997年12月に会計基準審議会 (Accounting Standards Board) から公表され、選手移籍金の会計処理が資産計上に統一されたことによる。換言するならば、1997年12月に FRS10 が公表される以前は選手移籍金の会計処理方法は統一されていなかったのである。

それゆえ、以前は③のように、選手移籍金について即時費用処理する方法と資産計上する方法とが存在していたのである。FRS10公表以前は1984年12月に会計基準委員会 (Accounting Standards Committee) から公表された SSAP22が暖簾の会計基準として効力を持っていたが、SSAP 22における買入暖簾の原則的な会計処理方法は買収時に資産計上せずに剰余金と相殺して即時償却するものであり、代替的な方法が買収時に資産計上してその後一定期間内で償却するものであった。

角田 [2012] で示したが、2012年時点においても、英国プロサッカークラブでは、この選手登録権の獲得の際に支出した金額を無形固定資産として貸借対照表に資産計上している。そして、残額ゼロとして契約期間にわたって償却を行ない、必要があれば減損処理も行なうのである。この点は、英国プロサッカークラブにおける会計処理の特徴である。

この選手登録権の会計処理に関して、イングランド・リーグ2 (実質4部) に所属する Oxford United の会長および財務担当者へ2011年2月と8月に行った聴き取り調査によれば、「選手登録権の獲得の際に支出した金額は無形資産として計上しているが、その金額も、銀行がプロサッカークラブへの融資を決断する判断対象となりえている」という証言が得られた。一方で、日本のある銀行の融資担当者によれば、「仮に素晴らしい経営者がいたとしても融資の際の担保価値には含まれない。返済が滞った場合にヒトは土地や建物のように差し押さえることができないからである」との回答が得られた。

英国の銀行には聞き取り調査を行なっていないため断定はできないが、プロスポーツクラブへ融資する場合の見解が英国と日本とは異なる可能性がある。

5. Annual Report を用いた分析—Tottenham Hotspur plc の事例—

Morrow [1992] では「現在、英国では2つのクラブ (Heart of Midlothian Football Club plc および Tottenham Hotspur Public Limited Company) のみが貸借対照表に資産として選手が含まれている」と述べられていたが、この会計処理の起源については明らかではなかった。

そこで、当時の年次報告書を検証し、英国プロサッカークラブではいつから、他のクラブから選手を引き抜く際に支出した金額を、無形固定資産として貸借対照表に計上するようになったのか、を明らかにしていく。

Morrow [1992] において、人的資源としての選手の価値について年次報告書で触れている最も古い事例は1990年の Heart of Midlothian FC plc と Tottenham Hotspur plc であった。1990年の Tottenham Hotspur plc の事例については詳しく触れられておらず、移籍金を資産計上する理由も明らかにされていなかった。そこで、Tottenham Hotspur plc [1990] を確認してみることとした。会計方針として“Transfer fees” (選手移籍金) は、「選手登録の費用は資産化し、見積残存価値を残して、選手の契約期間に渡って償却される」と記述されている。また、貸借対照表では無形資産として選手登録の費用 (cost of players' registrations) が1990年は£9,407,000 計上されている⁵ことを確認した。

次に、1年前に戻って Tottenham Hotspur plc [1989] を検証してみたところ、会計方針における移籍金の記述は1990年のものと全く同じ文章であり、貸借対照表における無形資産として1989年は£7,860,000が計上されている。しかしながら、Chairman's statement の中で以下のような記述があることを発見した。「専門アドバイザーの議論の下、移籍金に関する会計方針を変えることとした。選手登録の費用は、年齢と給料を基準として契約満了時点の残存価値を見積もり、契約期間に渡って償却することとする。取締役会は、この方針は実際の商業の実態をより反映するものとして支持する」とあり、選手移籍金を資産計上する理由についても述べられている。

これらはすなわち、Tottenham Hotspur plc については Morrow [1992] で言及されている1990年よりも1年早い1989年の時点で、他のクラブから選手を引き抜く際に支出した金額を無形固定資産として貸借対照表に計上しているという新事実を見出すことができた。

さらに Tottenham Hotspur plc [1987] を検証してみたところ、貸借対照表には無形資産の項目が無いことが確認できた。会計方針における移籍金は「選手登録の移籍として他のサッカークラブから支払ったり受け取ったりした移籍金は関連する費用と共に、移籍が行われた年度の損益計算書に計上される」という記述を見つけた。つまり、Tottenham Hotspur plc においても1988年以前は、他のプロサッカークラブと同様に、選手移籍金を即時費用処理していたことが判明した。

6. Annual Report を用いた分析—Heart of Midlothian FC plc の事例—

Morrow [1992] では「1987年の Heart of Midlothian FC の Director's Report の中で、『我が社のチーム (the playing staff) の期待売却価値および取替原価に基づいた価値は£1,450,000である』と記述されていて、その価値は貸借対照表の価値を反映したものではない⁶という記述があり、実際に検証することとした。

Heart of Midlothian FC plc については当時の Annual Report and Accounts は手に入らなかったが、Morrow が言及した1986年のものよりも4年も早い1982年のものを入手することが出来た。Heart of Midlothian FC plc [1982] の Report by the Directors によれば、「取締役と監督による私見であるが、割引現在売却基準 (a discounted current sale basis) に基づくチーム (the playing staff) の価値は£450,000であると見込んでいる。しかし、個々に売却したら£450,000を超える」と期待している」という記述がなされている事実を確認した。

7. まとめ

Morrow の研究では1990年の Tottenham Hotspur plc の事例については詳しく触れられておらず、また、移籍金を資産計上する理由も明らかにされていなかったが、本研究において、移籍金

について資産計上する根拠が示されている記述を発見した。Tottenham Hotspur plc [1989] では「資産計上し、残存価値を見積もって契約期間にわたって償却する方が、移籍金（transfer fees）の商業実態（commercial realities）をより厳密に反映するから会計方針を変更した」とある。さらに、1989年の時点で既に、Tottenham Hotspur plc では選手移籍金を資産として計上していたことも判明した。

また、Heart of Midlothian FC plc の Annual report and Accounts においても、Morrow [1992] で示された1986年よりも以前に、Director's report の中で選手の評価が行われていた新事実を見つけた。

ボスマン判決がなされる1995年以前は、契約が満了しても選手がプロサッカー選手を続けなければクラブに留まるか、移籍先のクラブに移籍元のクラブへ移籍金を支払って貰って移籍するか選択肢が無かった。換言すると、クラブにとっては選手との契約が満了しても、選手が引退しない限り移籍金が見込めた。それゆえ、商業的な投資対象としても成りえたのだと考えられる。以上、本研究では Morrow の先行研究の不十分な点を、実際の資料に基づいて補足した。

参考文献

- Amir, E. and Livne, G. [2005] "Accounting, Valuation and Duration of Football Player Contracts", *Journal of Business & Accounting*, Vol. 32 No. 3&4, April/May 2005.
- Dobson, S. and Goddard, J. [2011] *The Economics of Football*, second edition, Cambridge University Press.
- Morrow, S. [1992] "Putting People on the Balance Sheet: Human Resource Accounting Applied to Professional Football Clubs", *The Royal Bank of Scotland Review*, No. 174, June 1992, pp. 10–19.
- Morrow, S. [1995] "Recording the Human Resource of Football Players as Accounting Assets: Establishing a Methodology", *The Irish Accounting Review*, Vol. 2 No. 1, pp. 115–132.
- Morrow, S. [1996a] "Football Players as Human Assets. Measurement as the Critical Factor in Asset Recognition: A Case Study Investigation", *The Journal of Human Resource Costing and Accounting*, Vol. 1 No. 1, pp. 75–97.
- Morrow, S. [1996b] "What Price Freedom? Implications for Scottish Football of the Potential Abolition of Transfer System", *Scottish Affairs*, No. 15, pp. 83–100.
- Morrow, S. [1997a] "Accounting for Football Players. Financial and Accounting Implications of 'Royal Club Liegeois and Others V Bosman' for Football in the United Kingdom", *Journal of Human Resource Costing and Accounting*, Vol. 2 No. 1, pp. 55–71.
- Morrow, S. [1997b] "The City's Match of the Day", *New Economy*, Vol. 4 No. 4, pp. 202–206.
- Morrow, S. [1999] *The New Business of Football: Accountability and finance in football*, Basingstoke: Macmillan.
- Morrow, S. [2000] "Football clubs on the stock exchange: an inappropriate match? The case of Celtic plc", *The Irish Accounting Review*, Vol. 7 No. 2, pp. 61–90.
- Morrow, S. [2003] *The people's game? Football, finance and society*, Palgrave: London.
- Morrow, S. [2006] "Impression management in football club financial reporting", *International Journal of Sport Finance*, Vol. 1 No. 2, pp. 96–108.
- Morrow, S. And Guzman, I. [2007] "Measuring efficiency and productivity in professional football teams: evidence from the English Premier League", *Central European Journal of Operation Research*, Vol. 15 No. 4, pp. 309–328.
- 白石和孝 [2003] 『イギリスの暖簾と無形資産の会計』 税務経理協会。
- 角田幸太郎 [2006] 「人的資源の会計的認識－日英プロサッカークラブの実務を例として－」 『経済学研究』 第55

巻第4号、pp. 79-94。

角田幸太郎 [2008] 「選手登録権の公正価値評価-人的資源会計の例として」『企業会計』第60巻第9号、pp. 127-131。

角田幸太郎 [2012] 「プロスポーツクラブにおける人的資源の価値評価と組織業績の関係」『管理会計学会2010年度スタディグループ 管理会計研究の方法と実践の課題-アクション・リサーチの可能性-』第4章所収、pp. 53-72。

角田幸太郎 [2013a] 「人的資源の価値評価と組織業績の関係-プロサッカークラブのケース-」『別府大学紀要』第54号、pp. 137-148。

角田幸太郎 [2013b] 「人的資源の価値評価と組織業績の関係-Jリーグのケース-」『九州経済学会年報』第51集、pp. 109-117。

参考資料

Tottenham Hotspur PLC, *Annual Report* 1984, 1985, 1986, 1987, 1989, 1990, 1991, 1994, 1995, 1996, 1997, 1998, 1999, 2000, 2001, 2002, 2003, 2004, 2005, 2006, 2007, 2008, 2009, 2010, 2011, 2012.

注

1 Morrow [1992] p. 10.

2 Tottenham Hotspur plc [1984] p. 4.

3 Morrow [1992] p. 10.

4 角田 [2006] p. 87.

5 Tottenham Hotspur [1990] p. 15.

6 Morrow [1992] p. 13.